

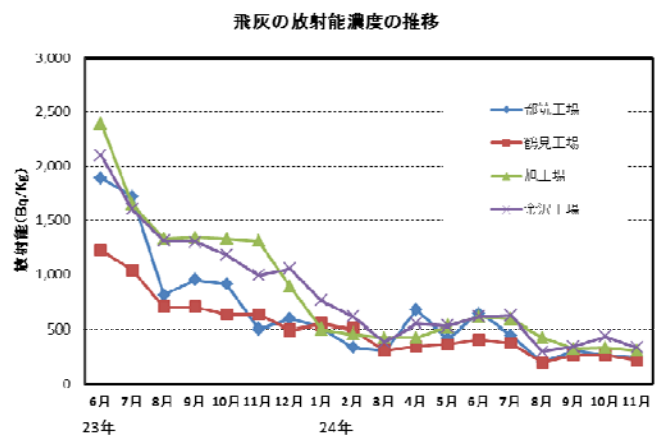
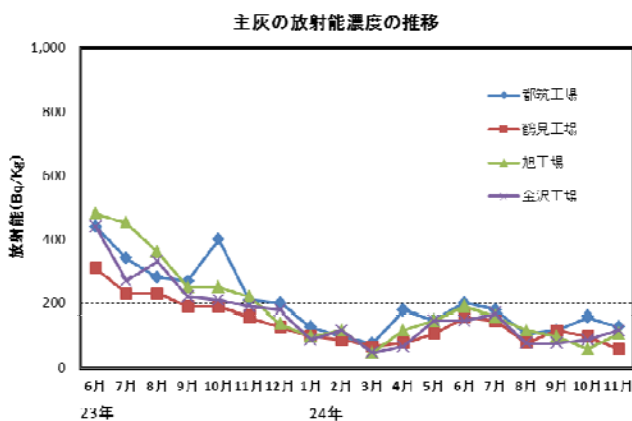
資源循環局における放射線対策について

1 放射能濃度等の測定結果

市民の安全・安心の確保を図るため、ごみ焼却工場の焼却灰や最終処分場の放流水等について放射能濃度等を定期的に測定し、結果をホームページ等で公表しています。

(1) 4 焼却工場のごみ焼却灰

測定を開始した平成 23 年 6 月は、主灰が 480Bq/kg、飛灰が 2,400Bq/kg と放射能濃度が最大でしたが、その後は減少傾向にあり、平成 24 年 11 月は、主灰が 60~130Bq/kg、飛灰が 220~340Bq/kg となっています。



(2) 4 焼却工場の排ガス

平成 23 年 8 月の旭工場から測定を始め、10 月以降は全工場で測定しており、全て「不検出」となっています。

(3) 南本牧最終処分場の放流水等

平成 23 年 6 月から排水処理施設での測定を始め、流入水(内水)は週 3 回、放流水は週 1 回、周辺海水は 5 か所で月 1 回測定しており、全て「不検出」となっています。

(4) 施設周辺の空間線量

平成 23 年 7 月から 4 焼却工場及び最終処分場の敷地境界や作業場所等で測定しており、平成 24 年 11 月は 0.01~0.07 μ Sv/h となっています。

これらは市内で継続的にモニタリングしている地点での測定値と同レベルです。

2 南本牧最終処分場の排水処理施設における放射性セシウム除去対策

排水処理施設の第二凝集沈殿槽にゼオライト粉末液を注入し、セシウムを吸着して汚泥として回収する設備が完成しました。

なお、この設備は、万が一、流入水中のセシウム濃度が上昇した場合に稼働させます。

(1) ゼオライトによるセシウム吸着・除去設備

排水処理施設の第二凝集沈殿槽にゼオライト粉末液を注入し、流入水中の放射性セシウムを吸着させ、汚泥として回収します。

(2) 汚泥の脱水・セメント固化設備

回収した汚泥を移送ポンプで脱水機へ送り、脱水します。

その後、安定化処理施設でセメントと混ぜ合せ、固化します。

【参考】排水処理のフロー

